

令和6年度

通知表の見方

(評価・評定の解説等)

江戸川区立葛西第二中学校

はじめに・・・

本校では、毎学期末に学校からご家庭へ通知表を発行しております。学習の到達状況(評価・評定)はもちろんのこと、お子様の校内における様々な活動の様子を1枚の紙面にまとめてお伝えさせていただいています。この資料内で簡単に解説させていただきますので、ぜひ通知表に目を通していただき、各ご家庭で学校生活や家庭での生活を振り返り、今後の課題や目標などを話し合ってください。

また、通知表に関して何かご不明な点がございましたら遠慮なく、各担任、各教科担当、各学年、副校長等までお申し出ください。

1 評価・評定について

通知表において、多くの生徒・保護者の方々にとって大変関心の高いものが各教科の「評価・評定」でしょう。

この「評価・評定」に関しては、4月16日(火)の全体保護者会で配布させていただきましたが、ここであらためてそのつけ方についてご説明いたします。

(1) 観点別学習状況の評価

各教科では、生徒の学力を評価するためのポイントが3つあり、これを「観点」といいます。そのそれぞれの観点を評価するための資料を生徒のあらゆる学習活動の中から集め、それぞれの観点ごとに独立して評価します。

これにより、自分がどの観点を優れた能力を発揮できたか、また、今後どのような観点が課題なのかということが明らかになり、新たな目標となることが期待されます。

【観点の種類及び評価のポイント】 中央教育審議会報告より

① 「知識・技能」 (知っている・できる・わかる)

各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価するものである。

② 「思考・判断・表現」 (使える)

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価するものである。

③ 「主体的に学習に取り組む態度」

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。

【観点の評価を行う方法】 (各教科によって異なります。)

① 「知識・技能」

ペーパーテスト(定期考査、小テスト、単元テスト)、教師による観察

各教科の特性に応じて、文章での説明・観察や実験・式やグラフでの表現・作品・実技(実演)など様々な方法が考えられます。

② 「思考・判断・表現」

ペーパーテスト、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品制作、表現(実技)などから教科の特性に応じた方法を選択して行うことが考えられます。

③「主体的に学習に取り組む態度」

ノート、レポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察などが考えられます。一場面を切り取った評価ではなく、一定の学習過程の中で見られた変化・変容や①②の観点の学習状況を踏まえて評価する必要があります。

(2) 観点の評価と評定の関係について

- ① 観点の評価では、「B（おおむね満足できる）」の基準に従い、以下の達成率を基準として＜A・B・C＞の3段階の評価を行います。
- ② 評定は、3つの観点の評価を総括し、以下の達成率を基準として評定を＜5・4・3・2・1＞の5段階で評価します。

| 観点別学習状況の評価【達成率】 | | | 評定【達成率】 | | |
|-----------------|-----------|----------------|---------|-----------|----------------|
| A | 十分満足できる | 80%以上 | 5 | 特に程度の高いもの | 90%以上 |
| | | | 4 | 十分満足できる | 80%以上 90%未満 |
| B | おおむね満足できる | 50%以上 80%未満 | 3 | おおむね満足できる | 50%以上 80%未満 |
| C | 努力を要する | 50%未満 | 2 | 努力を要する | 20%以上 50%未満 |
| | | | 1 | 一層努力を要する | 20%未満 |

- ③ 評定を算出するにあたっては、3つの観点を以下の比重で重みづけを行います。

「知識・技能」：「思考・判断・表現」：「主体的に学習に取り組む態度」＝1：1：1

- ④ 各観点が全て「A」⇒評定は、「4」以上、全て「B」⇒必ず「3」、全て「C」⇒「2」以下の評定になります。

注1) 学習活動全てが評価・評定の材料、資料となります。したがって、学期に1～2回行われる定期考査の得点が高いからといって、必ずしも評価・評定が高くなるわけではありません。その他の学習活動(特定の観点)があまりにも低い場合には、総括して算出する評定が想像以上に低くなることもあり得ます。また、逆の場合もあります。

注2) それぞれの評価・評定には幅があります。「A」がついたからといって安心してはいけません。ギリギリのAだったかもしれません。また、評定で「3」がついたからといってがっかりすることはありません。あと一息で「4」になる位置にいたかもしれません。

そこで、学習意欲が一番高まる時期を見越して、本校では各教科の評定に○や△をつけることにしています。○はあと一息で1ランク上がるという生徒に、△はもう少しで1ランク下がってしまうという生徒に対してです。参考にしてください。

* 3年生の1学期のみ表示します。

注3) 観点別学習状況の評価において、長期欠席等で評価する材料が全くない場合は「A～C」ではなく「/（斜線）」という評価になります。また、3つの観点のうち、1つでも「/」がある場合、評定も「5～1」ではなく「/」となります。

注4) 評価・評定のお伝えの仕方は、1・2年生と3年生では異なります。

| | 1, 2年生 | 3年生 |
|-----|---------------------------------|---------------------------------|
| 1学期 | 1学期の学習活動で評価・評定 | 1学期の学習活動で評価・評定 |
| 2学期 | 2学期の学習活動で評価・評定 | <u>1, 2学期の学習活動を総合した評価・評定</u> |
| 3学期 | 年間(1～3学期)を通したすべての学習活動を総合した評価・評定 | 年間(1～3学期)を通したすべての学習活動を総合した評価・評定 |

2 出欠の記録について

通知表の一番下にある「出欠の記録」もぜひしっかりとご確認ください。担任が毎日出欠の確認(出席簿への記入)を行っておりますが、保護者の方のご記憶と異なる場合があります。疑問に思われることがございましたら、学校へご一報ください。

この表の中で1点、よく質問されることがあります。「授業日数」と「出席しなければならない日数」の違いについてです。「授業日数」とは単純に学校で授業が行われた日数で、学年ごとに共通しています(ちなみに、今年度の1学期の授業日数は、1学年は71日、2、3学年は72日です。)

これに対して「出席しなければならない日数」とは、出席停止日数(コロナやインフルエンザなどの感染症にかかってしまい、医師から出席してはならないと言われた日数)と忌引の日数(ご親族のご不幸で学校を休まなければならなくなってしまった日数)を差し引きした日数ですので、生徒ごとに異なる場合があります。これらの日数は実際には学校に登校していませんが、「欠席」にはカウントされません。これらに該当する場合には、担任と連絡を取り合いお間違えのないようお願いいたします。ただし、急なご事情がおありの場合には、さかのぼって出席簿の訂正を行いますのでご安心ください。

| | 授業日数 | 出席停止 ・忌引等 の日数 | 出席しな ければなら ない日数 | 欠席日数 | 出席日数 | 遅刻 | 早退 | 備 考 |
|------|------|---------------------|-----------------------|------|------|----|----|-----------|
| 1 学期 | 72 | 2 | 70 | 3 | 67 | 0 | 1 | 忌引1、出席停止1 |

【参考例】

3 所見、その他の記載事項について

●「所見」には、各担任がその学期を通してお子様と学校生活を共にしてきた中で感じた事柄が記載されています。短い文章の中に凝縮されたお子様の学校生活の様子が記されています。ぜひ、お子様と一緒にじっくりとお読みください。ご家庭で見せるお子様の様子と全く違う一面を校内で見せているということもよく聞かれます。1日の半分以上を過ごす学校での生活です。お子様について新たな発見があるかもしれません。所見には、お子様ががんばってきた点や素晴らしい一面とともに、今後の課題となる点も記載されていることもあります。目を通していただき、目標作りの一助としていただければと思います。なお、2・3年生の1学期と全学年の2学期については、終業式前後に三者面談を行うことで、所見は割愛させていただきます。

●「特別活動」の欄には、その学期中のお子様の活動について記されています。記載できる字数が限られておりますので、それぞれの活動の具体的な様子までお伝えすることは難しいですが、これらの記載をもとにしながら、お子様と学校生活を振り返っていただければと思います。

●「総合的な学習の時間・読書科」の欄につきましては、1・2年生は学年末(3学期の通知表)に、3年生は2学期末と学年末(2学期の通知表と3学期の通知表)に、学習内容や取り組みの様子などを評価したものを文章で記載します。

●「特別な教科 道徳」の欄につきましては、学期ごとに道徳の授業についての学習内容や取り組みの様子などを評価したものを文章で記載します。

おわりに・・・

- (1) 通知表は学期ごとに1枚ずつ、お渡しします。1学期にファイルに入れてお渡ししますので、ご家庭で保管してください。2・3学期は、通知表を1枚だけお渡ししますので、持ち帰れるようクリアファイル等を準備してください。また、1・2年生は3学期に「修了証」をお渡しします。3年生は卒業証書をお渡ししますので、「修了証」はお渡ししません。
- (2) 「家庭から学校へ」の欄および、校長印、担任印、保護者印の押印欄は廃止いたしました。(始業式に通知表を学校へ提出する必要がなくなりました。)